

金窪城跡と金久保内出遺跡との関係

金窪城跡は、金久保内出遺跡の北西に位置する平城です。現在には堀と土塁の一部が残るのみです。伝承では、治承年間(1177~1180)に武蔵七党の丹党家である加治家季が築城し、天正10年(1582)の神流川合戦において、滝川一益に攻め落とされた城として知られています。元禄11年(1698)の知行替えにより廃城になったと伝えられています。

今回の調査で確認された第22号溝跡は、幅約4.8m、深さ約2.5mの大型の堀跡で、南北に延びています。側面の傾斜がきつく、底面が幅狭く掘り込まれた薬研堀です。おそらくは防御的要素が強い堀跡と考えられることから、金窪城跡との関連が想定されます。



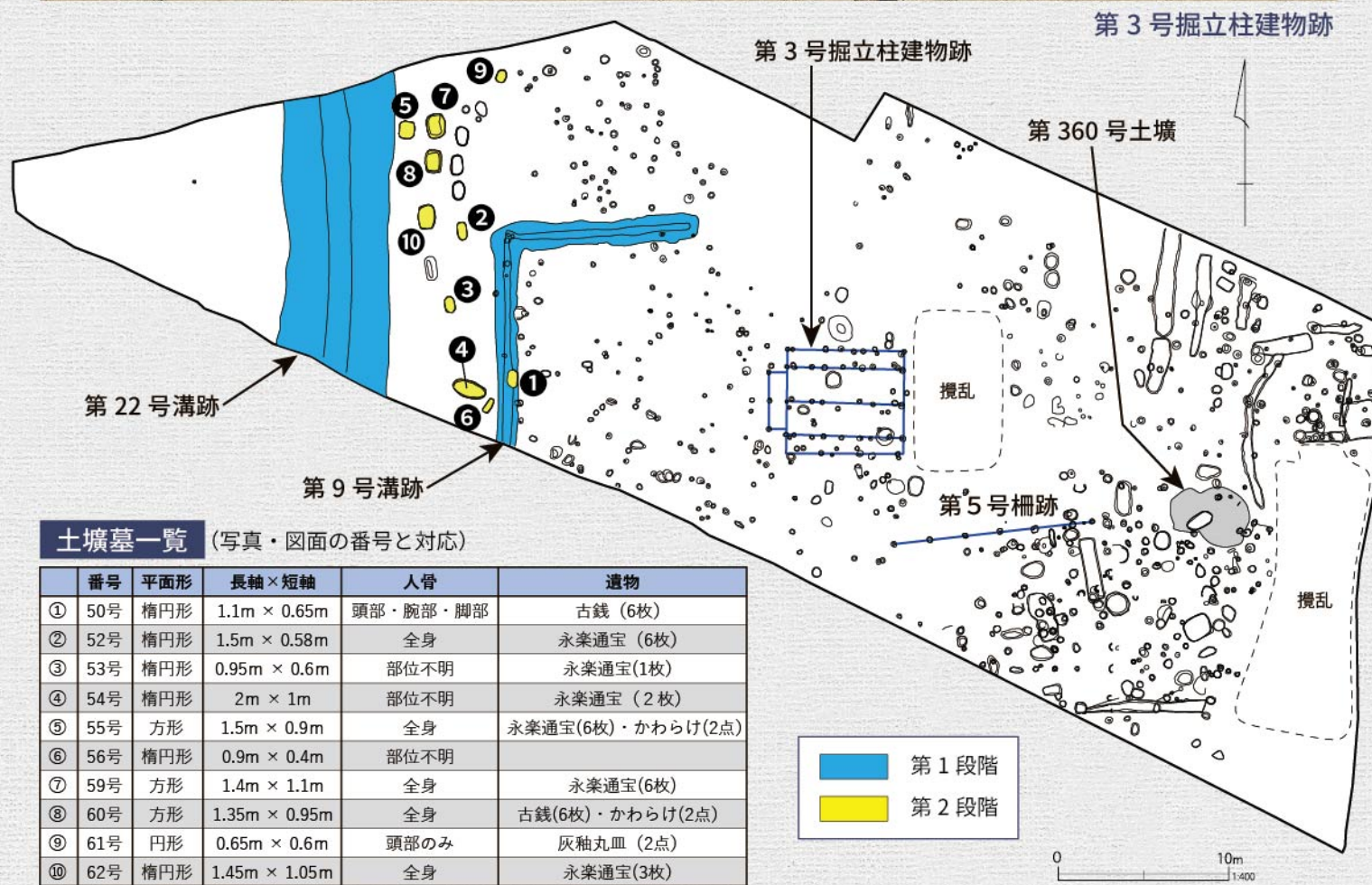
金窪城跡 推定範囲
(参考『上里町史』及び平田重之氏)

上里町 かなくぼうちで 金久保内出遺跡 (第3次)



金久保内出遺跡は、神流川扇状地末端に立地する古墳時代から中世の遺跡です。第3次調査では、中世の掘立柱建物跡、堀跡、土壇墓をはじめ、古墳時代の竪穴住居跡、祭祀関連遺構が発見されました。中世の金久保内出遺跡の周辺には、金窪城跡や陽雲寺、金窪神社が存在し、関連が考えられます。今回の発掘調査で見つかった遺構や遺物は、上里町の歴史を語る貴重な発見です。

金久保内出遺跡 (第3次) 第3地点



土壇墓一覧 (写真・図面の番号と対応)

番号	平面形	長軸×短軸	人骨	遺物
①	50号 楕円形	1.1m × 0.65m	頭部・腕部・脚部	古銭(6枚)
②	52号 楕円形	1.5m × 0.58m	全身	永楽通宝(6枚)
③	53号 楕円形	0.95m × 0.6m	部位不明	永楽通宝(1枚)
④	54号 楕円形	2m × 1m	部位不明	永楽通宝(2枚)
⑤	55号 方形	1.5m × 0.9m	全身	永楽通宝(6枚)・かわらけ(2点)
⑥	56号 楕円形	0.9m × 0.4m	部位不明	
⑦	59号 方形	1.4m × 1.1m	全身	永楽通宝(6枚)
⑧	60号 方形	1.35m × 0.95m	全身	古銭(6枚)・かわらけ(2点)
⑨	61号 円形	0.65m × 0.6m	頭部のみ	灰釉丸皿(2点)
⑩	62号 楕円形	1.45m × 1.05m	全身	永楽通宝(3枚)



※屈葬人骨 (横向き)



※屈葬人骨 (横向き)



※屈葬人骨 (仰向け)



※屈葬人骨 (仰向け)



※頭部のみ埋葬



第61号土壇

かいゆう 灰釉丸皿 (16世紀中頃～17世紀初頭)



えいらくつうほう 永楽通宝



かわらけ (16世紀中頃～17世紀初頭)



かわらけ (16世紀中頃～17世紀初頭)

確認された中世の遺構群は、大きく2段階に分かれます。

第1段階(図面 青色)は、調査区の中央付近に第3号掘立柱建物跡、その西側に第9号溝跡、堀跡(第22号溝跡)があります。第9号溝跡が、第3号掘立柱建物跡と方向をそろえて「L」字形に囲むように巡っていることから、居館などの一部である可能性があります。

第2段階(図面 黄色)は、第9号溝跡と第22号溝跡の間に土壇墓群が営まれています。死者は手足を折り曲げた姿勢で埋葬されています。食器や銭もいっしょに納められていました。

発見された中世の遺構の時期は、遺構の特徴や出土した遺物などから16世紀から17世紀初頭と考えられます。周辺にある金窪城跡や陽雲寺と存続時期が重なります。また天正10年(1582)にはこの地で神流川の戦い(かんながわ)が起こりました。